

平成25年度 第1回簡易耐震化工法検討委員会WG合同会議 議事録 (案)

日 時：2013年6月11日 13:00～15:00

場 所：徳島県木材利用創造センター

出席者：宮本、小杉、後藤、坂田、日下(フレッセ)、富永、佐藤(幸)、中飯、松田、内野

1. 地域材利用開発事業の進め方など

- ・ 外に出る文書等には「地域材利用開発事業」の助成を受けている旨を記載。
- ・ 建築士会でこの事業用の口座を作る。

2. 耐震シェルター

- ・ 要素試験から積み上げて、構造設計者がいなくても必要サイズに合わせた設計が出来るようにする。壁を一面何ユニット、など。
- ・ 素材、壁など、試験結果の有無を確認し、無いものは試験して基本性能を把握する。
- ・ 8帖サイズ(要望多し)他基本サイズ5種等、ある程度規格化しておいて使いやすく。
- ・ 基本的には23年度の合板方式を踏襲する。が、居住性を考えると・・・
- ・ できれば合板よりも杉(厚板?山城パネル?)を。データ無ければ直接載荷曲げ試験。
- ・ 大工さんが一度聞いたらいメージできる簡易な工法で。
- ・ 柱を入れることで合理化できるならそれも考慮。
- ・ 折れた梁が天井貫通?現場からの声もある。
- ・ 実績から、使いたい人、現場からの要望など取りまとめる→次回提示(日下)
- ・ 基礎、周辺との取り合いなど、詳細なマニュアルの整備を。

3. 耐震建具

- ・ 昨年度は欄間壁ありで進めたが、そのたれ壁の強度が結果を支配した。
- ・ 欄間の形状に左右されない補強を検討するにはたれ壁ナシの状態でのフレーム補強が必須。(大工さんと呼ばずに済むためには常に内法側から考えること)
- ・ 試験概要(候補) 1:たれ壁あり建具なしフレーム 2:たれ壁なし建具なしフレーム(要補強) 3:床下に基礎がないフレーム(高床形状) 4:より強度のある建具単体
- ・ 床下に基礎がないフレームモデルは、柱脚がピンになる治具を用意する。
- ・ 鴨居のはずれ止めは金物でもいいのでは。同時にたれ壁分の強度を補完できたら。
- ・ 床下で、柱と束を角材で挟んで補強(実際の現場でおこなっている補強)など。
- ・ 土間にコンクリートを打って鋼製束で敷居支える?→「建具屋さんだけで完結」目指す。
- ・ 建具は偏材でつくるから折れにくい。芯持材は、折れる。
- ・ 杉ヒノキで若干変わるが昨年度の太格子建具で一枚5万円程度の見込み。
- ・ 材料供給については品質をそろえるためセンターと協議してすすめる。
- ・ ～7月:方向性の整理 8～10月:設計 11月～試験、解析まとめ 3月:講習会

4. その他

- ・ 県事業は基本公表するべし。特許とるなら話は別だが、特にその必要はない。
- ・ 次回合同会議 6/21(金) 15:30～